

第 31 回 日本赤十字社診療放射線技師会 近畿ブロック研修会報告

期日 令和 5 年 10 月 21 日(土)
担当施設 京都第二赤十字病院・舞鶴赤十字病院
会場 京都第二赤十字病院 C 棟 6 階会議室
参加者 12 施設 99 名

今回の第 31 回 日本赤十字社診療放射線技師会 近畿ブロック研修会は、京都第二赤十字病院と舞鶴赤十字病院の協同で開催された。

はじめに開催施設技師長である正者技師長の開会の宣言に始まり、小林裕院長挨拶、荒井一正会長挨拶に続いて、バイエル薬品株式会社ラジオロジー事業部の牛尾喜一様より、マルチペイシェント CT インジェクターCentargo を紹介して頂いた。

教育講演として京都第二赤十字病院救急科医長の神鳥研二先生より「医療安全性向上のための診療放射線技師の役割」として講演いただいた。処置としてチューブ類の挿入や挿管、CV カテーテル挿入後等の確認によく行われるポータブルの写真を中心に、確認するポイントや処置が上手くできていなかった症例をお話しいただいた。講演では話に合わせて実際の医療器具も各自手に取って見られるように回して下さった。最後には普段写真を見慣れている技師から気づくことがあれば、医師にも伝えてほしいと話されていた。

休憩を挟み、グループディスカッションでは事前に依頼したアンケートをもとに、教育・スキルアップ・接遇・医療安全等のテーマに分かれてディスカッションを行った。各施設の取り組みや意見を交換し、最後に各グループで出された意見が発表された。対面でのディスカッションのため盛んな意見交換が行われた。

グループディスカッションと同時刻に、施設代表者会議が行われた。

研究発表では、12 演題の発表があった。

最後に、次期開催施設である日本赤十字社和歌山医療センターの荒井一正技師長の挨拶があり、進行担当の舞鶴赤十字病院の藤原朗課長が閉会の宣言を行った。